

〔資料紹介〕

「大陸往来」一九四三年度 記事細目

大 橋 毅 彦

〔前言〕

本稿は拙著『昭和文学の上海体験』（二〇一七・三 勉誠出版）の第十六章・第十八章にあたる「初期「大陸往来」の一瞥——含・一九四〇～四二年度同誌掲載記事（作品）タイトル一覧」（初出「日本文藝研究」二〇一五・三）と「「大陸往来」総目次（一九四二年度）と『大陸往来賞』の周辺」（長谷部剛編、関西大学東西学術研究所研究叢書第5号『日本語文化の「転化』」（二〇一七・三 ユニウス）所収）に次ぐ、戦時上海で刊行されていた現地日本語総合月刊雑誌「大陸往来」の一九四三年度発行分を対象とした細目紹介文である。六・十一・十二月号は未見だが、それ以外の九冊は中国国家図書館（北京）が所蔵しており、この細目紹介は同館所蔵のものを利用して作成した。以下、当該年度の同誌の発行形態ならびに登載作品・記事に見られる傾向・特徴のあらましについて触れ、その後実際の記事細目を掲げることにする。

まず、「大陸往来」の発行人と発行所について確認すると、前者（正確には発行編輯印刷人）が大輪一郎である点は前年と同じであるが、発行所の方は一九四二年三月までの奥付に記された北四川路八七九号虹口ビル、同年四月から

九月までの海寧路三德里三五号、一〇月から一九四三年一月までの北四川路八八七号に次いで、この年二月から南京路キャセイホテル（旧・サッスーンハウス）二七号に移っている。同じ年に邦字新聞「大陸新報」の社屋が西華徳路から外滩（黄浦灘路）一七号に移ったのと同様に、虹口地区からいわゆる河向うの一等地、共同租界の中心部に、日本の上海全域支配の余勢を買っての進出だったと言える。七月号にはそれまでの南京・東京に次いで漢口及び北京に支局が開設されたという業務拡充の動向を伝える社告も載った。反面、戦局が決して有利に傾いているばかりではないことを告げるものとして、五月号の「編輯後記」では用紙節約により少々減頁の運びを余儀なくされたという断りも出ている。とは言え、他の月と比べて記事の分量が格段に多い新年号を除いた二月号から四月号までの平均頁数と、五月号以降一〇月号までのそれを比較するなら、前者が九八・七頁、後者が九二・四頁であり、それほど目立った頁数の減少は見られない。おそらくこの傾向が顕著なかたちで現れてくるのは一九四四年に入ってからではあるまいか。

内容面について見てみよう。「大陸談苑」が一月号から新たに始まっているが、それ以上に注目したいのは、汪兆銘南京国民政府の対英米参戦によっていわゆる「日支提携」の呼び声が高まってきたことを背景として、中国の新たな動きを取り上げていこうとする動きが随所に見出せることである。それは執筆者の人選や、現地中国語雑誌からの訳載も含めた各記事タイトルから確かめられるが、とりわけ前年の六月号以降中断されていた「中国論壇」を三月号から復活させたことがそのことを端的に示しており、同誌四月号「編輯後記」にはそれを自負する言葉が載せられている。加えて同文章中には「創作欄は今後日華人の作品を交互に発表して現地雑誌の意義をあらしめたいと思ふ」という企図も記されている。すなわち、この年の一月号と二月号に掲載されたのは、小泉譲「じょんぶるの歌」と河肥莊平「半歳記」といった現地日本文学者の小説だったが、三月号には李如雲の小説「零路」が作品末尾に「第一

部」という断り書きを付して現れ、次いでこの四月号においては譚惟翰の小説「秋の歌」が室伏クララの訳で登載されていたのである。ただ、六月号は未見のためわからないが、七月号から九月号までの誌上には中日両国作家の創作は掲載されず、右の企図がいささか掛け声だけに已んでしまったかの感もある。たまたま同年四月に上海文学研究会の機関誌的役割を果たす「上海文学―春季作品」が中国人の書き手も巻き込む形で創刊され、同年一〇月には第二号にあたる「上海文学―夏秋作品」も刊行され、現地文学者がこちらの雑誌メディア上での活動に力を傾注するようになったことも、そのことに何らかの影響を及ぼしているかもしれない。「上海文学―夏秋作品」に掲載された黒木清次の小説「棉花記」は、同誌第三号にあたる「上海文学―冬春作品」（一九四四・四）に掲載された続編と併せて芥川賞候補となったもののだが、この作品の初出形は一九四二年八月号の「大陸往来」に掲載された「新土」である（「新土」は同誌においては「大陸往来賞入選候補作品」として掲載。この折の筆者名は「佐野清」というペンネームが用いられている）。このように、やや創作欄の夏枯れ状態が続いた「大陸往来」だったが、管見し得た一九四三年度のものうち時期的には一番後になる一〇月号には、この年七月に『予且短篇小説集』を太平書局から出版、第一回大東亜文学賞次賞を受賞した潘予且の短編「老宗」が神谷賛（上海自然科学研究所研究員でこの時点では組織変更により同仁会中華衛生研究所研究員となっていた、また同年七月号「社告」によれば大陸往来社顧問に推挙されていた小宮義孝）の訳で掲載される運びとなった。この月上旬には中日文化協会上海分会改組大会が開催され、中日文化交流に向けての態勢づくりが活発になっており、それと相俟つての中国人文学者の起用であろう。ちなみに「大陸往来」の同号の巻頭特輯も「改組・中日文化協会に檄す」であり、こちらの方は未見だが、十一月号においては予且・小宮義孝も含めた日中文化人による「日華文化促進座談会」が掲載されることも予告されている。

〔凡例〕

・各号の「目次」において、作品（記事）名の記載順が必ずしも頁順とはなっていない箇所もあったので、原則として細目紹介は頁順に即して作成した。

・作品（記事）タイトルが「目次」掲載のものと本文とで異なる場合は、原則として後者に従う。また、その際、サブタイトルがあればそれも併記した。

・〔特輯〕が組まれている場合、その表記やそれに組み込まれる記事タイトルが「目次」と本文とで異なる場合があるが、両者を比較してどちらが適切であるか判断できる場合はそれを探り、判断がつかねる場合は原則的に本文に記載されているものの方を採った。また〔特輯〕に組み込まれている記事については、タイトルの上に＊を付した。

・執筆者や座談会出席者の肩書が「目次」や本文に記されている場合にはそれを記した。なお、同一人物に関して同じ肩書がその後の記事においても出てくる場合は原則的にそれを省いた。また談話筆記で文責が示されている場合は括弧を付してそれを記した。個人名ではなく編集部・調査部といった表記がある場合はそれを採った。

・作品（記事）の内容についてコメントを付ける際には（ ）内にそれを記した。

・文芸作品中、「俳句 枯園」のように作品タイトルの前にそのジャンルを示す表記のないものについては、作品の内容・形式から判断できるものに関してはタイトルの下に括弧を付して（詩）・（小説）・（短歌）というようにジャンル名を補った。

・注目すべき社告は採り上げ、その都度「社告」と表記した。

・人名は原則として新字体に改めたが、一部旧字体として残したものもある。誤植であることが明らかなものについてはママを用いて改めた。

・その他、見易さや内容をチェックして、必要があれば一部表記を整理した。
 ・現段階の調査では未見の一九四三年六月号・十一月号・十二月号は、以下の細目紹介では欠号扱いとして表記した。

・「編輯後記」「奥付」については、発行所に変更があるなど注目すべき情報が出てきた場合にその旨を記した。

〔記事細目〕

○一九四三（昭和二八）年一月号（第四卷第一号）

巻頭短言

大陸談苑

告化子

周作人を訪ふ

版画を通じて

満洲の青年作家

〈爵青・小松・疑遲・杜白雨・呉琰・金音・励行建・劉漢に言及〉

中国和平攻勢の進展と基盤

汪院長の訪日と中国の新事態

中国革新の歴史的基盤

中印関係と英国

李 如雲 14 頁 15

君 匡 15 頁 17

田川 憲 17 頁 18

今野東行 18 頁 20

白浜雄三 22 頁 26

豊川浩平 27 頁 32

山田準一 34 頁 35

新しき武漢建設の様相（座談会）

36～47

出席者 近藤大佐（漢口軍特務部）・秋根昌美（武漢大政翼賛会副会長）・宝妻壽作（漢口居留民団民会議長）・張榆芳（大楚報社長）・張仁蠡（漢口特別市政府市長）・真銅政治（漢口日本商議理事）・石星川（中江実業銀行総裁）・本社側（千代田記者）

日本の印象

潘 予且 訳・吉田狸狼洞 48～51

〈大東亜文学者大会に出席した筆者が開催地の東京から出した便りと帰国後に書き加えたものとを掲載した「中華日報」から、訳者の好みにより抄訳したもの〉

湖北建設を聴く 対談 語る人 湖北省政府主席 楊 揆一

52～59

聴く人 本誌特派員 千代田一郎

重慶情報

編輯部 60～61

現地説物 無雙と仙客（Ⅱ）

河原流太郎 62～66

財界夜話 その後の上海遊資

滬北隠士 68～71

大陸文化情報

68～71（三段組下段）

〈「中日文化徐州分会」・「新装上海劇場」・「山田耕作氏茶会」・「報国懸賞論文」など〉

中国古典文学解剖（七） 唐代の伝奇小説（三）

佐藤幸司 72～81

街頭時評

82～83

中国文壇人の横顔 劇作家『田漢』に関するノート

永楽七六郎 84～92

〈文末に「雑誌」復刊第四号掲載王易菴「記田漢」に拠る」とあり〉

俳句 枯園

野村杜季子 9 1

「枯園に寡婦ゐて寂光をたゝへ浴ぶ」ほか六句

上海軍工路（詩）

兼松信夫 9 3

支那に於ける易学の研究（六）

住山南岳 9 4 9 8

養蠶合作社の問題

松石正樹 1 0 0 1 0 3

中国新体詩の發展

揚^マ（楊）之華（作） 吉田狸狼洞（訳） 1 0 4 1 1 2

「東方文化第一卷第五期に發表された楊之華「中国近代新詩的起源及其派系與流變」の訳

風俗時評 もんぺいの効用に就いて

小泉 讓 1 1 4 1 1 5

現地保健問題への提議

高安周雄（大陸新報論說委員） 1 1 6 1 2 3

現地事業会社

1 2 4 1 2 5

じょんぶるの歌（小説）

小泉 讓 1 6 4 1 8 2

編輯後記

加茂生 1 8 4

奥付

發行編輯並印刷人 大輪一郎 上海北四川路八八七号

印刷所 大陸印刷局 上海乍浦路四五五号

發行所 大陸往来社 上海北四川路八八七号

総配給元 中央書報發行所 上海虬江路九七二号

○一九四三（昭和一八）年二月号 第四卷第二号

扉カット・目次カット

同人

卷頭言

2 3

現地大持事記

2 3（下段）

大陸談苑

「経営代理制」談義

岡田嘉彦 4 6

中国現代美術の展望

吉田 理（元上海毎日新聞社記者） 6 9

〈劉海粟・林風眠・徐悲鴻・陳抱一に言及〉

日滿華共同前進

葉 堯公（在上海滿洲帝國総領事） 9 11

倭寇と戎克に就いて

小林宗一（中支戎克協会理事） 1 1 1 4

〔特輯 戦ふ中国の新事態〕

* 租界還付と治外法権の撤廃

鎌田 壽（上海市政研究室） 1 6 2 0

* 国民政府参戦の影響

林 大学 2 1 2 5

* 国府参戦と中支経済今後の動向

浅野栄三（三田政治学会員） 2 6 2 9

* 国民政府の参戦と科学及び技術

小宮義孝 3 0 3 6

* 国民政府参戦経済の方向

岡田龍介（上海経済研究所員） 3 7 4 1

風俗時評 個人主義の風俗的現象に就いて

小泉 讓 4 2 4 3

精密機械工業と現地の状況

孫田昌植 4 4 4 8

新中国文芸界の荒彫り―特に楊琇珍と譚惟翰の短篇作品について 予 且 訳・室伏クララ 49～54

〈楊の「藍色のドナウ」・「聖パウロ教会の晨鐘」、譚の「鬼」・「悲喜交響曲」・「鏡の話」を取り上げる〉

重慶情報

55～57

大陸文化情報

55～57 (二段組下段)

〈「小報の統合」・「日劇舞踊隊来支か」・「日本各所図絵」(南方美術社主催、中日文化協会後援「日本風景絵画展覧会」など)

中国文壇人の横顔(二)

永楽七六郎 58～62

〈文末に「半月刊「萬歳」創刊号所載王易庵の「記謝冰瑩」による」とあり。「一、謝冰瑩雜録」・「二、曹禺の印象」・「三、魯迅夫人について」の見出しがあるが本号では「一」のみ〉

ソ聯最近の諸問題

仲衛一郎 64～73

〈独軍に重要地点を悉く占領されながら今尚レニングラードを死守しているソ聯軍の反撃と国内事情〉

半歳記(小説)

河肥莊平 74～85

〈文学研究会の発会式の場面で小説は結ばれる〉

編輯後記

86

奥付

発行編輯並印刷人 大輪一郎 上海南京路キヤセイホテル27号(一月号から変わる)

発行所 大陸往来社 上海南京路キヤセイホテル27号(一月号から変わる)

○一九四三（昭和一八）年三月号 第四卷第三号

扉カッ

卷頭言

現地大事記

大陸談苑

上海今昔談

新文化の創造（新時代の上海に期待するもの）

住宅問題管見

急変する上海経済と居留民の今後について

鉛筆句会同人作品抄

〈堀野三樓「上海雜記」（俳句五句）、平尾土茶「難民（二）」（俳句五句）掲載〉

〔特輯〕

* 治外法権の撤廃と中国法規の適用問題

* 中国法制史管見——特に婚姻制度について

* 新中国建設と産業共栄運動の性格

対談 新経済学の構図

小宮義孝（医学博士・自然科学研究所々員） 野田豊（野田経済研究所々長）

* 歴史の反省と建設の基調

2 〵 3
（下段）

2 〵 3

橋本弁次郎（永礼化学株式会社業務部長） 4 〵 6

佐藤秀三（上海自然科学研究所々長） 6 〵 8

千葉成夫（上海市政研究室） 9 〵 10

江島命石（上海三河興業株式会社社長） 10 〵 12

1 2

真鍋藤治（上海満鉄調査室） 14 〵 21

青木秀夫 22 〵 29

越村安太郎 30 〵 36

38 〵 47

構田慶二郎 48 〵 54

文化時評 文化団体の性格

三浦桂祐 56／59

〈標語が五・七・五の韻を踏んで俳句のすぐ傍に歩み寄つてゐた、といふことに對するおどろき〉を記す

重慶情報

60／63

鉛筆句会同人作品抄

62

〈石山巖々子・緒方一路・三宅鐘樓・山本清・秋根百日紅の作各二句〉

中国論壇

我等の武器

馮 節 (国民政府宣伝部駐滬弁事所々長) 64／67

中国青年の抱負

袁 殊 訳・室伏クララ 68／77

街頭点描 支那芝居に於ける非倫理性に就いて

小泉 譲 78／79

中国新文学の曙光

柳 雨生 80／85

〈「北方文壇」の周作人・沈啓无・李景慈、上海方面の陶亢德・予且・筆者自身の活動について言及。林房雄ら日本の文学者とのかわりについても触れる〉

中国文壇人の横顔 (二)

永楽七六郎 86／90

〈曹禺の印象〉

北支石炭界の動向と中支の依存性に就いて

桜田俊郎 92／95

大陸文化情報

96／97

〈「内地作家の渡支」・「話劇団を綜合」・「不如帰・愛国百人一首翻訳」・「中国青年の油絵展」・「蘇州河

激戦の跡』完成」など

華中煙草配給組合の創立とその使命

零路（小説）

〈作品末尾に（第一部）とあり〉

編輯後記

「暫く中止していた中国論壇を復活させた」との言葉あり

○一九四三（昭和一八）年四月号 第四卷第四号

扉カット

巻頭言 道義精神と国民政府

現地大事記

大陸談苑

感覚の錬成

現地機械工業動向―多彩な将来性

文化工作と映画

〈李麗華主演「売花女」にも触れる〉

〔特輯 道義精神の実践方途〕

* 対支政策転換と事変処理

大島生 96～97（下段）

李如雲 98～106

108

2～3（下段）

2～3

片上淳二（在滬医学博士） 4～6

佐々木忠雄（日華機器同業公会主事） 6～8

陳是晶 8～9

榊原二郎（在上海大使館調査官） 10～17

＊対支政策の基本的認識

＊政策転換後に於ける中支経済の動向

参戦後清郷工作の性格

支那女性の二つのタイプに就いて

中国論壇

逞しき新中国建設の巨歩―国民政府還都三週年

中国教育の過去と戦時の在り方

重慶研究

中国文壇人の横顔（完）

〈魯迅夫人について〉の見出しあり

参戦後の中支経済と国策会社の使命

大陸文化情報

〈徐州文協の新事業〉・「中国映画史製作」・「日華提携作品製作」・「大東亜民族小説当選発表」など

上海居留民団新議員点描

決戦下の国債問題

現地事業会社紹介 三井火災海上保険株式会社新設

秋の歌（小説）

編輯後記

立石 峻 18ゝ27

市川滬春 28ゝ34

葉山 信 36ゝ43

小泉 譲 44ゝ45

孟 祺 46ゝ53

蘇 鉄 54ゝ57

永楽七六郎 60ゝ65

伴野 清 66ゝ68

70ゝ71

70ゝ71（下段）

語る人 大使館調査官 有保昇 72ゝ75

76

譚惟翰 訳・室伏クララ 78ゝ100

102

「中国論壇小説とも参戦を契機に活発化した中国新鋭の文化人を動員した。創作欄は今後日華人の作品を交互に発表して現地雑誌の意義をあらしめたいと思ふ」

○一九四三（昭和一八）年五月号 第四卷第五号

扉カッタ

巻頭言 東亜の倫理

19

大陸談苑

山東鉄道時代の憶出―支那鉄道と加賀山学氏

和田 哲 20 23

防空と空襲

山口 清（上海居留民団議員） 23

現地鉄工企業の再編問題

深田静太（上海鉄工業組合幹事） 24

接客業者の進発

余語精一（上海検番社長兼常務取締役） 24 25

土木建築の指標

横沢栄四郎（上海土木建築業協会幹事） 25 26

在留邦人と防諜観念

河村次郎（横浜正金銀行上海支店支配人） 26 27

中国法制史論

青木英雄 28 40

撃ちてしまむ（短歌）

加茂喜三 33 34（上段）

「撃ちてしまむ五首」・「この御業七首」・「戦果発表さる二首」・「わが決意二首」がそれぞれ掲載

再編過程の上海経済

富山豊一（毎日新聞上海支局員） 41 47

蒙疆経済の現段階

北山亥四三 48 57

中国農村經濟の性格

津久井信夫 58～61

日本海々戦―第三十八回海軍記念日を迎へて

鎌田正一（支那方面艦隊報道部長・海軍大佐） 62～64

育兒旦春

齋藤佐都雄 65

〈短歌八首〉

重慶研究

66～67

現地大事記

66～67（下段）

辺疆地域の仏教問題

新野修基 68～73

〈文末に（未完）とあり〉

〔特輯 躍進する浙贛地区〕

*見て来た金武

加賀山学（華中運輸副社長） 74～76

*浙贛雜記

石山基春 76～79

中国論壇 中国文化の前進

張 資平（中国代表評論家） 80～84

〈「大東亜戦争」が中国の一般文化に及ぼした影響を七点にわたって略述〉

大陸文化情報 85

〈「日華親善の音楽映画」・「学生調査旅行記出版」・「中国映画界の新体制」・「武漢邦人劇団生る」・「白系

露人組織の蝙蝠座〉

日華及び東亜の問題に就て 李 希白（国府建設部秘書） 86～90

三寒四溫（俳句）

木村木蓮 88

〈俳句五句。作者について「武漢における句会」「菱荇」の代表作家」との紹介あり〉

上海の海軍記念日（記念行事案内）

90

現地国策会社事業紹介

中支に於ける地下資源 華中鉅業の巻（1）

92～94

中支に於ける水道事業 華中水電の巻（2）

94～95

社告〈漢口連絡事務所を漢口支局に改新、千代田一郎を責任者とす〉

95

特別寄稿 中国の青年に寄す

室伏高信 96～106

編輯後記

107

〈用紙節約により今月から少々の減頁をする運びとなったことを記す〉

※六月号（第四卷第六号）欠号

○一九四三（昭和一八）年七月号 第四卷第七号

扉カット

卷頭言 英魂に誓ふ

7

大陸談苑

滬北雜記

燕石齋主人 8～9

〈裁判を主材にした公案物の一つである「龍図公案」の主人公をめぐる〉

「濁流」談議

宮路知覚 9 10

中国映画への期待

林柏生（国府宣伝部長） 10 11

時局随想

川口一朗 11

続・告化子

李如雲 12 14

国防と思想戦争

古谷多津夫 16 20

現地翼賛運動の前進

波多博（文責記者） 22 25

〈「中南支興亜翼賛会」の発足をうけて。「中南支興亜翼賛組織系統図」掲載〉

中国時事

26 27

対支文化工作の基底―現地在留邦人の立場として

小泉讓（中国文化経済研究所員） 28 32

〈「日華文化交流の円滑を計らんとするには、上海でいふならば先づ「虹口文化」の止揚を描いては成立

しないと云ふも極言ではないであらう〉

国府の戦時文化宣伝政策

加茂喜三 34 38

〈「戦時文化宣伝政策基本要綱」の発表をうけて〉

大陸文化情報

40 41

〈「映画「中国々歌」の製作」・「上響の最終公演」・「黒田伯来滬」・「蝙蝠座再演評」など〉

上下経卦序論

住山南岳 42 51

重慶地区に於ける文化態様（参考資料）

52 57

〈文末に「中国雑誌「一年来的桂林文化界」に拠る」とあり。〉

中国古典文学解剖（八） 続・伝奇小説畧解

佐藤幸司 58～65

〈文末に筆者身邊の都合により暫く休載の旨記す。なお、筆者佐藤は中華映画宣伝部員との紹介もあり〉
社告 65

〈弊社では今回業務拡充に伴ふ社内革新を断行左記の如く陣容刷新を致しました〉として、「編輯記者室伏クララ」への「命東京出張（五月一日発令）」をはじめ計六件の辞令を掲載〉

社告 (66)

〈上海精密機械工芸社々長孫田昌植・滬甬航運公司總經理莊謙信・昭南劇場代表津吉悦夫・自然科学研究所医学博士小宮義孝を弊社顧問に推戴〉

社告

〈漢口及び北京に新たに支局開設。南京・東京とあわせて各支局一覧を掲げる。〉（新設）漢口支局 所在地 漢口旧日租界中街七四松竹荘内 代表 千代田一郎・（新設）北京支局 所在地 北京和平門内順城街 代表 和田宗・（既設）南京支社 所在地 南京中山東路中央飯店 代表 米倉岩美（兼任）・（既設）東京支社 所在地 東京日本橋区小舟町一ノ二 代表 松田元一〉

編輯後記

70

〇一九四三（昭和一八）年八月号 第四卷第八号

卷頭言 決戦完遂の根本義

7

大陸談苑

南方の体臭

京劇と映画

支那服を纏ふて

八、一三随感

〔日華根本建設の道標〕

*中国文学者におくる

〈上海の柳雨生の「風雨談」創刊号を北京で手にした折の感懷も交えつつ〉

*真の「日本」通と「支那通」の言葉

〈辜鴻銘と北一輝について〉

*日華間の誤謬論

大東亜戦と江北農村

大陸文化情報

〈演劇「吼えろ支那」蚌埠で開催・「保甲日語校初の卒業」・「蘇州の日絵画展感銘」など〉

租界還付とドイツの言

杜告〈漢口支局「漢口市黄陂街二一四号」へ移転〉

上海白系露人概史

〈文末に「未完」。「現在「白露民団たる」在「露西亜亡命委員会」沿革」など〉

宮原正男（前海軍通訳） 8／9

奥田久司（京劇研究家） 9／10

真木一英（農場主） 10／11

筒井勘市 11／12

河上徹太郎 14／17

吉田東祐 18／20

清水伊知呂 22／26

藤卷成幸（鐘紡江北興業農務部長） 28／37

38／39

訳・安井源雄 40／44

44

松下白峰 46／51

華北労働問題の性格

石川 茂（華北勞工協合理事長代理） 52～54

〈文末「未完」とあり〉

華北現況報告

和田特派員記 56～58

〈還付後の天津仏租界・食糧対策諸問題・増産と日本技術の指導〉

建設武漢識見 千代田一郎 60～64

武漢産業界展望 66～67

国策会社紹介 淮南炭礦の巻 68

中国論壇

抗戦地域の民衆 郭方琴 70～73

革新中国経済の方途 余天休 訳・郭柏霜 74～79

洋上決戦と米国の苦悩 古谷多津夫 82～85

実話記抄 老鼠沙事件の真相 住山南岳 86～97

〈「老鼠沙事件とは今は昔大正三年即ち欧州戦争後の実話であり、当時上海の石油指定地となつてゐた高橋鎮を繞つての上海在留邦人の活躍秘話である」との編輯部の前書きあり〉

編輯後記 98

○一九四三（昭和一八）年九月号 第四卷第九号
（扉カットなし）

卷頭言 東洋回帰の版図

大陸談苑

租界回収と阿片禁止

撫象漫語

勤務雜記

九月雜感

敵神經戰の崩壊

大震災より二十年目

昭和維新論

大東亜戦争の今後

新国民運動の新展開

中国教育問題概論

支那買弁制度の沿革

九江南昌 産業經濟

華文雜誌の動向

〔共榮圈文化の根本理念〕

* 始源・大東亜文化の繼紹

* 中国文学病理学

「大陸往來」一九四三年度 記事細目

陳 以益（国府外交部顧問） 9

上田和（中華煙草会社漢口支店長） 9 1 1

富士あざみ（在滬ドイツ総領事館員） 1 1

宮原喜代次（上海日商工会議所員） 1 1 1 2

清水伊知呂 1 2 1 3

前畑 正 1 3

大機道人 1 4 1 9

関根郡平（軍事評論家・予備役海軍少将） 2 0 2 3

園田京二（南京民団囑託） 2 4 2 8

菊沖徳平（大東亜省派遣教員） 3 0 3 7

陳 亜夫（振亜商業銀行董事長） 3 8 4 1

萩原武七 3 8 4 1（下段）

遠江三郎 4 2 4 5

横尾美代次（現地文化研究家） 4 6 5 1（上段）

陶晶孫（自然科学研究所員） 4 6 5 1（下段）

「中国の文学に就いて」「病理学の心得があると中国文化、文壇には深入りしやうとは思はなくなる」と云ひたくなる」

鄂人の特異性を観る

南波町人（武漢大陸新報顧問） 52頁 60

「鄂人」湖北人が古来より体现してきたのは「異民族排撃への努力」だと述べる」

現地会社 永札化学工業会社の近況

61

現地事業紹介

漢口の巻 新設 中華無盡会社の巻

62

武漢の巻 躍る時の人（武漢財界の巨頭石星川について）

63

哈爾濱の白系露人と宗教行事

河野 潜 64頁 69

航空記念日に寄せて 海鷲の決闘南海を圧す

永島 啓輔（支那方面艦隊報道部員） 70頁 73

〈ムンダ上空の大空中戦の検討〉

シチリヤ戦局以前—シチリヤの旅から

安井源雄（在滬ドイツ総領事館員） 74頁 79

大陸文化時報

80

「中国文学陣代表東京へ」・「上海文協改組か」など

編輯後記

92

○一九四三（昭和一八）年十月号 第四卷第十号

〔改組・中日文化協会に概す〕

* 文化交流の根本問題

* 文化とその交流

〔われゝの現地文化の特殊性〕は「われゝの文化と中国文化との、特に広義の意味についての両文化の一つの重要な交流地点であるといふところ」にある。

* 改組と美術家の立場

〔旧文化協会上海分会美術組発足以降の動向を振り返りつつ〕

予告

〔十一月号掲載 日・華文化促進座談会 出席者〓柳雨生・周越然・予且・小宮義孝・小竹文夫・内山完造〕

綿糸布買上政策後の上海物価問題

経済上海と商統会の動向

決戦・産業人を語る 江島命石論

武漢産業界展望 無限資源の確保 日華繊維株式会社の巻

社会時評 現地翼賛体制に寄す

翼賛運動と青壮年団

官と民の見解

小竹文夫（東亜同文書院教授） 8 〓 12

小宮義孝（上海自然科学研究所） 13 〓 17

長谷川三雄（上海美術研究所主） 18 〓 20

20

久我克彦（華興商業銀行調査部） 22 〓 24

伊能江瀧男（上海商工会議所員） 26 〓 31

滬北隠士 32 〓 34

34

湯浅 誠（現地新聞記者） 36 〓 37

大河原寛一郎 37

「大陸往来」一九四三年度 記事細目

祖国の精神

横尾美代次 37 ~ 38

中支に於ける日本側社会事業の現況

岡田 実 40 ~ 47

〈文末に「中支ニ於ケル日本側ノ社会事業施設一覽表」(昭和十八年八月末日調)掲載〉

〔特輯 新らしき杭州建設の様相〕

* 浙江産業の建設状況

松本覚一郎 48 ~ 51

* 敢闘する杭州の実態

52 ~ 56

「邦商の戦時体制」大槻伝一郎(杭州商工報国会々長)・「杭州の文化工作」大津潤山(杭州臨濟寺住職)・「杭州経済の性格」粕井英一(華興商業銀行杭州支店長)・「杭州建設と文化」井上隆一

* 杭州居留民団の現況

56 ~ 58

* 杭州商工会の発足

58 ~ 59

* 躍進杭州の産業界を覗く

60 ~ 63

〈「貿易 安宅洋行と祥大森の巻」・「魚菜 杭州魚菜市場の巻」・「金融 浙江工商復興銀行の巻」・「貿易 三河興業杭州支店の巻」・「運輸 杭州運輸組合の巻」〉

大東亜建設即英米撃滅 加茂・千代田両君を送る

清水 生 67

〈本誌漢口支局長代理の千代田君、上海本社勤務の加茂君の電撃的な「皇軍」入りを送る〉

再編された武漢経済―施策の道標を覗く

千代田一郎 68 ~ 70

在支米空軍を衝く

木下 亘(読売報知中支総局) 72 ~ 76

現地演劇 昭南第十回公演評

三好喜十郎 77

〈軽喜劇を売りにする昭南劇団の「江戸の裏街」と「円盤を抜けて」の観賞記〉

土台石

内山完造 78～81

〈「支那」の家庭教育・児童教育に想を得た随筆〉

老宗（小説）

予且（大東亜文学賞受与者）

訳・神谷賛 82～95

編輯後記

96

※十一月号（第四卷第十一号）欠号

※十二月号（第四卷第十二号）欠号

（おおはし たけひこ・関西学院大学文学部教授）